

平成29年度 標準的学力調査の結果（HP版）

学校支援課

平成30年1月に実施した標準的学力調査（東京書籍版CRT）の結果をお知らせします。
（数値は平均正答率％）

<中学校2年生理科>

年度	新潟市	全国	全国との差	標準スコア
平成29年度	54.2	55.4	-1.2	49.4
平成28年度	55.8	55.5	+0.3	50.1

<中学校2年生英語>

年度	新潟市	全国	全国との差	標準スコア
平成29年度	61.0	62.1	-1.1	49.5
平成28年度	58.6	53.2	+5.4	52.4

中学校理科

【今年度の結果について】

中学校理科は、全国平均とほぼ同程度だった。種別にみると「基礎」は全国平均を下回り、-1.6ポイントであったが、「活用」は全国平均を上回り、+0.7ポイントであった。領域別に見ると、エネルギーの領域（電流の性質）は全国平均を+0.5ポイント上回ったが、粒子の領域（化学変化と原子・分子）は-3.8ポイントと大きく下回った。また、生命の領域（動物の世界）は全国平均を+0.9ポイント上回った。なお、地球の領域は、まだ未履修のため調査対象より除外してある。

昨年の調査と比較すると、達成率が61.7ポイントから57.7ポイントに下がっている。今回の調査から知識理解に不十分な点があり、領域においては粒子の定着が不十分であることが明らかになった。学習内容を確実に定着させるため、日々の授業での課題を明らかにし、指導を工夫・改善することが必要である。

◆内容ごとの状況（中学校・理科）

- …全国平均を上回った主な問題
- …全国平均を下回った主な問題

- 酸化銀の分解で発生する気体を確かめることができる。
- 酸化銀の分解でできた固体の性質について理解している。
- 実験を行う上での注意点を理解している。
- 鉄と硫黄の化合を、化学反応式で表すことができる。

- 反応によってまわりの温度が上がる反応を、「発熱反応」ということを理解している。
- ゆるやかな酸化によって起こる現象を考えることができる。
- 気体の発生が終わったあと、ゴム管をピンチコックでとめる理由を理解している。
- 実験の結果のグラフと表から、試験管の中に未反応の炭素が残っていることを説明できる。
- 細胞を観察するとき用いる染色液を理解している。
- 動物を分類する特徴について考えることができる。
- 恒温動物について理解している。
- もとは同じ器官であったと考えられる器官を、「相同器官」ということを理解している。
- 熟した後のバナナに糖ができていのかどうかを調べる実験を指摘し、結果を説明できる。
- 抵抗器に流れる電流の大きさを求めることができる。
- 抵抗器に流れる電流の大きさを調べるために、電流計をつなぐ箇所を指摘できる。

【今後の対応について】

◎理科を学ぶ意義や喜びを実感できる授業を心掛ける

学習内容となる科学のしくみが生活で利用されていることに気付かせたり、身近な自然事象を問題化し、その解決に向けて探究的な学びを組織したりすることで、理科での学びと実生活との結びつきを実感できるようにする。

◎学習内容を構造化できる授業を心掛ける

他教科や領域で扱った理科的な要素について、理科の授業で追究させたり、既習事項の延長線上に新たな学習を設定したりすることで、知識を構造化し、より深い理解へとつなげられるようにする。

◎生徒が基礎的事項を発信して身に付ける授業を心掛ける

基礎的事項については、そのしくみや特徴について、個々に考えたことや調べたことを共有し、構成する活動を通して、定着できるようにする。また、章末や単元末で、まとめノート（レポート）を作らせるなど発信できる活動を組織する。

中学校英語

【今年度の結果について】

新潟市全体の状況は、基礎・活用ともに全国平均をやや下回った。種別にみると「基礎」が全国平均より－1.1ポイント、「活用」が－1.2だった。領域別では、「聞くこと」の領域で－1.3、「読むこと」の領域で－0.3、「書くこと」の領域で－1.7ポイントだった。観点別では、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」が－3.1、「外国語表現の能力」が－4.6と課題が見られた。昨年まで課題のあった「リスニング」「長文の読み取り」等に関わる「外国語理解の能力」は、全国平均を0.5ポイント上回り、改善が見られた。

全体は大きく上回っているが、小問題別に見ると、「リスニング」の対話内容を

聞き取り，適切に応答することに課題が見られた。また「英作文」の対話の流れに合った英文を書くことに課題が見られた。

◆内容ごとの状況（中学校・英語）

○…目標値を上回った問題

●…目標値を下回った問題

【聞くこと】

- 絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。（～がある／いる）
- 絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。（昨日楽しんだこと）
- 対話の内容を聞き取り，適切に応答することができる。（なぜそこに行ったのかたずねられて）
- 対話の内容を聞き取り，適切に応答することができる。（どのようにして学校へ行くのかたずねられて）
- 英文の要点を聞き取ることができる。（何に所属をしていたか）
- 英文の要点を聞き取ることができる。（もっとも伝えたいこと）
- 対話の内容を聞き取り，資料をもとに英語で答えることができる。

【読むこと】

- 語形・語法を理解することができる。（動名詞）
- 語形・語法を理解することができる。（疑問詞）
- メールの要点を理解し，相手の質問に適切に応じることができる。
- 対話の流れと表から，登場人物の適切な発言を判断することができる。
- 英文の内容を把握することができる。
- 登場人物の言いたいことを理解することができる。

【書くこと】

- 単語を正しく書くことができる。（有名な）
- 単語を正しく書くことができる。（子ども）
- 英文を正しい語順で書くことができる。（副詞的用法の不定詞）
- 英文を正しい語順で書くことができる。（「～してはいけない」の文）
- 場面に応じて書く英作文：対話の流れに合った英文を書くことができる。（していたことをたずねる）
- 場面に応じて書く英作文：対話の流れに合った英文を書くことができる。（いつかをたずねる）
- 今週末の予定について，まとまった内容で説明する分を書き表すことができる

【今後の対応について】

◎目的，場面に応じた表現活動の設定

前述のとおり，「外国語表現の能力」が－4.6と課題が見られた。「話すこと」は評価対象になっていないので，「書くこと」に関する設問で多くの課題が見られたと言える。特に「場面に応じて書く英作文」に関する内容において，2問中2問とも目標値を大きく下回った。

また，「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」が－3.1と「外国語表現の能力」に次いで低い数値だった。英語で意思疎通を図りたいという関心・意欲は

コミュニケーション活動の前提となる。

新学習指導要領の外国語科の目標に、『外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方』を働かせることが明記されている。『外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方』とは、『コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること』とある。

これを受け、単純な和文英訳をさせるのではなく、生徒一人ひとりに「英語でコミュニケーションを図る必要がある、図りたい」という目的意識を醸成させるために、明確な場面、状況設定をしたい。生徒が自らのコミュニケーションの成否を通して、成果と課題を分析できるようにすることが大切である。

◎絵やまとまった英文を読み、状況を説明する活動の設定

既習言語材料を繰り返し用いさせるために、帯活動等で即興的なスピーキング（やり取り）を行っている学校が増えている。毎回でなくてもよいが、仲間とのやり取りを通して、互いの意見を2、3文の簡単な英語でまとめるライティングの活動を設定するとよい。また、絵を見せ、その状況を2、3文の簡単な英語で表現する活動を定期的に設定するのも効果的である。その際、全生徒の書いたものを添削するのは難しいが、机間指導の中から、多くの生徒が間違ったスペリングや効果的な英文法を意図的に取り上げ、既習単語のスペリングや語順、文法に触れる機会を多くしていくとよい。